

HOPE^{plus}

【市立芦屋病院だより】



産婦人科の紹介

産婦人科 部長 ^{せん} 錢 ^{こう} 鴻武



市立芦屋病院産婦人科は、兵庫県内でも屈指の婦人科内視鏡手術専門施設として、阪神間だけでなく県外からも多くの患者さんや医療関係者より高い評価を受けています。平成26年11月に日本産科婦人科内視鏡学会より技術認定を受けた医師が初めて着任して以来、約2000件の腹腔鏡手術が実施されました(令和5年8月現在)。子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症、骨盤臓器脱といった良性疾患を対象に、在籍する2名の内視鏡技術認定医を中心として、年間300件以上の鏡視下手術を実施しています。(令和4年度実績:腹腔鏡手術287例、子宮鏡手術39例)

一般的に腹腔鏡手術の利点として「傷が小さくて体に優しい」という印象が広く持たれていますが、それは腹腔鏡のメリットのほんの一端に過ぎません。我々は、腹腔鏡手術の最大の利点は、「術野を拡大して観察できること」だと考えています。腹腔鏡手術ではビデオカメラを使用してお腹の中を拡大して見ることで、肉眼では観察が難しい狭く入り組んだ骨盤の奥深い部位も容易に確認できます。また、癒着した臓器同士の境界や微細な血管の走行も、開腹手術より鮮明に見えます。そのため、腹腔鏡手術の専門的なトレーニングを受けた医師ならば、開腹手術よりも細やかで質の高い手術を行うことができます。

「癒着があるから腹腔鏡手術ではできない」、「子宮が大きいため腹腔鏡手術はできない」といった誤解をしていませんか？実際には、腹腔鏡の利点を最大限に活用できる熟練医師の手にかかれば、「癒着があるからこそ腹腔鏡手術」、「子宮が大きいためこそ腹腔鏡手術」といった逆の提案がなされることもあります。これまで手術を断られた経験のある方々も多いと思いますが、ぜひ「できないかも」と諦める前に、「もしかしたらできるかもしれない」という視点で我々にご相談いただければ幸いです。個々の病状に合わせた適切な選択肢をご提案いたします。



左より 宮田主任医長 錢部長 安田副医長

新任 Dr
の
ご紹介



診療科
外科

専門分野
消化器外科

まつやま たけひさ
松山 剛久

先生から一言！

本年10月より赴任いたしました。安全で低侵襲な治療を心がけて、日々診療させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

一度は受けておこう！

オプション検査のご紹介

人間ドックセンター長 渡部 和子

わたなべ かず こ

脳ドック

脳ドックではMRIを使用して症状のない潜在性脳梗塞(写真①)脳萎縮(写真②)や未破裂動脈瘤などを早期に発見する検査です。

骨密度測定

当院では、年齢とともに最も変動の大きい腰椎と左大腿骨頸部の骨塩量を、骨強度評価に最も信頼できる検査法DEXA法で正確に測定しています。特に女性では閉経後に骨塩量が急激に減少し、骨粗鬆症の方では進行とともに、胸腰椎の変形が進行します(写真③)。50歳前後には一度は測定して、その後も定期的に検査を受けましょう。

14日間持続血糖測定

令和5年度より、近年増加している糖尿病、脂質異常症予防のために、皮下血糖測定装置による14日間持続血糖測定を実施しています。何をどのくらい食べたら高血糖になるかを知ること、過食や運動不足を改善して、適正体重を維持できるように生活習慣改善を行なう検査です。7日目、14日目に面談を行い、80～90%の方が生活習慣改善に成功しています(写真④)。

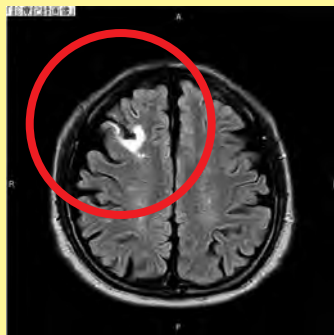
その他、様々なオプション検査を受けることができます。詳しくは病院ホームページをご覧ください。



QRコードはこちらです

写真①

潜在性脳梗塞

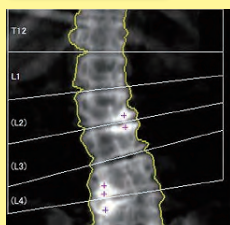


写真②

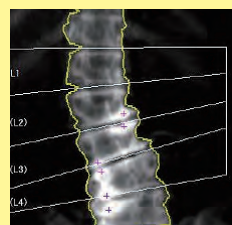
脳萎縮



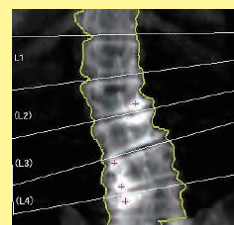
写真③



64歳



68歳



69歳

写真④



CGMで血糖の動きを見てみませんか？

<検査スケジュール>

受診日-センサー装着

7日目-面談①

14日目-面談②

食べすぎを防ぎ、減量効果もあります。



公開講座

問合せ：芦屋市立公民館 0797-35-0700

時間 14時～15時30分

場所 芦屋市民センター401号室

参加費 1回 200円

日程	内容	講師
10月14日(土)	口から十分に食べられなくなったらどうしますか？	市立芦屋病院 外科 野呂 浩史 医師
11月11日(土)	ぎっくり腰は予防できる ～覚えておきたい4つの心得～	市立芦屋病院 理学療法士 田村 宏
12月9日(土)	子宮頸がんとHPVワクチンに関する最新の情報	市立芦屋病院 産婦人科 宮田 明未 医師

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止になる可能性があります。市立芦屋病院ホームページをご覧ください、上記の芦屋市立公民館へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

あしや 日曜健康診断

～平日は忙しい方のために～

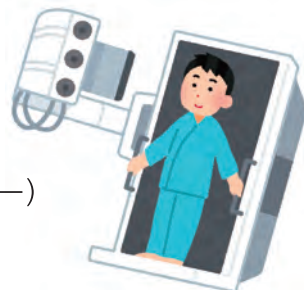
日時 令和5年10月15日(日)

午前9時から午前11時30分

場所 市立芦屋病院 外来棟3階

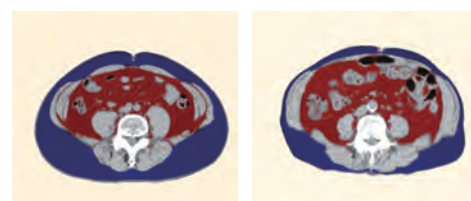
がん検診

- 肺がん検診 ●胸部CT検査 ●腹部超音波検査 ●大腸がん検診
- 子宮頸がん検診 ●婦人科超音波検査 ●HPV検査 ●乳がん検診(エコー)
- 乳がん検診(マンモグラフィー) ●肝炎ウイルス検診
- 抗ピロリ抗体検査 ●前立腺がん検診 ●腫瘍マーカー



生活習慣病健診ほか

- 特定健康診査 ●後期高齢者医療健康診査
- 頸動脈超音波検査 ●骨密度検査 ●腹部内臓脂肪測定
- 甲状腺検査 ●リウマチ検査 ●睡眠時無呼吸検査



内臓肥満

※芦屋市の検診無料クーポン券を利用できますので、お持ちの方は当日必ずご持参ください。
※お申し込みは10月5日までにお願いします。

上記のお申し込み、お問い合わせは

TEL.(0797)31-2156

医事課検診担当(平日午後1時～午後4時半まで)



詳しくは病院ホームページをご覧ください。
こちらのQRコードが便利です!

電子処方箋に対応しています!

電子処方箋とは、紙で発行している処方箋を電子的にもやり取りできるようにしたものです。複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報の参照、それらを活用した他院のお薬との飲み合わせチェックなどができます。ご不明な点は、お気軽におたずねください。

お問い合わせは医事課まで



当院はマイナンバーカードを
健康保険証として利用できます。

市立芦屋病院 無料Wi-Fiサービス



令和4年4月1日より、当院を利用される方の利便性向上のため、全棟において**無料Wi-Fiサービス**をご利用いただけます。詳しくは病院ホームページまたは院内掲示にてご確認ください。

当院ホームページから連携医療機関のホームページへアクセスができます!!



パソコン、携帯電話
タブレットなどから
ご利用ください

QRコードは
こちらです



【連携医療機関URLホームページ】
<https://www.ashiya-hosp.com/gairai/iryokikan.html>

ねっと版糖尿病教室のお知らせ

閲覧自由

現在集合型糖尿病教室開催は中止しております。

そこで、糖尿病療養について

【ねっと版糖尿病教室】として情報発信をしております。
www.ashiya-hosp.com/kyoushitsu/tounyou.html



QRコードは
こちらです

事業管理者のつづき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

秋波を送る

秋の季節のひとつに「雁渡し(かりわたし)」という言葉があります。雁渡しとは初秋から中秋にかけて吹く涼しい北風をいいます。七十二候の中の「鴻雁来(こうがんきたる)」は雁渡しに乗って雁が飛んでくる時期を指し、美味しい秋の美りのシーズンです。

雁渡し 北見青透く 薄荷飴 (文挾夫佐恵)

朝市に 煮貝の匂ふ 雁渡し (石原八束)

草木より 人翻る 雁渡し (岸田稚魚)

雁渡しはもともと漁師が使っていた言葉のようです。秋になり人影もまばらになった海浜に、風に吹かれて寄せては返す静かな波・・・秋の澄み切った水の波は中国語で「秋波」といいます。それが美人の美しい目元のたとえとなりました。

秋波は異性に対して恋心を表す目つきをする、つまり色目を使うことで、「秋波を送る」と表現します。しかし通常は男性が女性に「秋波を送る」とはいいません。あくまで女性が男性に媚を含んだ目つきで見つめたり、流し目を使ったりすることを「秋波を送る」といいます。「目は口ほどにものを言い」と言われるように、見つめるという行為「眼差し」は男性に対して非常に有効で、大抵の男は女に必要以上に見つめられるとクラクラとなるようです。自然界では文字通り秋「波」を送る昆虫がいるからおどろきです。カメムシといえばあまり好感を持つ人はいないと思いますが、カメムシの仲間のアメンボのオスは水面で脚を微妙に動かして波を発生させ、求愛活動に使っているそうです。この波に反応したメスはこれも特有な波を送り求愛に応えたことを知らせ、交尾に至るといいます。たかが秋波と言っても馬鹿に出来ません。もっともアメンボの場合はオスが秋波を有効に送り、メスも秋波で返答している点がヒトと違いですが。

「秋波」と同様に「秋扇(しゅうせん)」という言葉も女性と深い関係を持ちます。男の愛を失った女のたとえを、あたか

も夏の間は重宝がられていても秋になって涼しくなると片づけられてしまう扇子になぞらえ、「秋の扇」と称します。前漢の成帝に寵愛された班婕妤(はんしょうよ)が君寵の衰えたわが身を秋扇に擬した故事によります。世阿弥の謡曲「班女」や三島由紀夫の翻案劇「班女」にも登場する言葉です。

扇子といえば、折りたたみ式のことを思い浮かべます。数本から十数本くらいの細長い竹や木で出来た骨を一端(要、かなめ)で固定し、開閉出来るようにされています。「扇は要、傘は轆轤(ろくろ)」はいずれも重要な部分を指すことわざです。白檀の扇子などはあおぐたびに木の香りが漂って、使う人のセンスの良さが偲べれます。もっとも電車の中などで扇子を用いる人など見かけなくなりました。代わって登場したのがハンディファンといわれる小型携帯扇風機です。コンパクトでしかもあおぐ必要もないことから流行ったようです。カラフルでデザインもさまざまなことから、実用的なオシャレ用品として若い人の間で人気が出たと思われます。首かけタイプまであります。「秋扇」は死語となって、「秋ファン」になるかもしれません。

(2023.10.1)



事業管理者のつづきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内



※ 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

.....交通案内.....

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から



タクシー
約7分



バス
約25分
JR芦屋駅、阪急芦屋川駅のりば2番



徒歩
約30分

市立芦屋病院の理念

病院理念

あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

基本理念

芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します



日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G: Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1

TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822

ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>